

バリ島を訪れて

2018. 10. 30

ますかたゆうすけ
升方祐輔

(株) 新日本コンサルタント 発電事業推進室

1. はじめに

インドネシアのバリ島と云われて、皆さんはどのようなイメージをもたれていますか。やはり、思い浮かぶのは透明度の高い綺麗なビーチでしょうか。本稿では、ご期待のビーチリゾートではなく、伝統的な米作りが盛んなバリ島のUNESCO世界文化遺産登録されている「バリ州の文化的景観：トリ・ヒタ・カラナの哲学を表現したスバック・システム」をご紹介しますと思います。

私がバリ島を訪れるきっかけとなったのは、棚田の落差と用水路網の水量を利用した小水力発電を普及させる「用水路対応型小水力発電システムによる農村地域の電力不足解消」JICA普及実証プロジェクトに参加したことからです。



図-1：位置図

2. UNESCO世界文化遺産

ご紹介するUNESCO世界文化遺産は、バリ州・タバナン県・ジャティルウィ村に位置し、美しい棚田（ライス・テラス）が広がる欧米人観光客に人気の絶景スポットです。2012年に登録された世界文化遺産の構成要素は、棚田とその灌漑施設、およびスバックといわれる水利組織と不可分の存在である寺院群から構成されています。また、全国民の90%近くがイスラム教のインドネシア共和国にあって、バリ島は、バリ・ヒンドゥーというバリ島独特な宗教が信仰されており、神・自然・人間の密接な繋がりを説く「トリ・ヒタ・カラナ」を体現したスバックが美しい棚田を守ってきています。

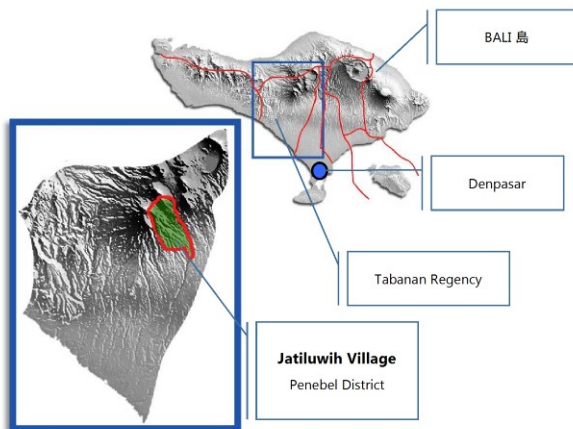


図-2：位置図



写真-1：ジャティルウィ村の棚田

3. スバック・システム

スバックとは、バリ島に見られる伝統的な水利組織であり、その歴史は9世紀から続いているものと推測されています。農地耕作に関する各地区のスバックには共通したルール“Awig-Awig”といわれる法典があり、「棚田を保全する」、「森林地域を源とする水利機能を保全する」、「パルヒャンガン（ヒンズー信仰と人類調和）の概念に沿った宗教活動を遂行する」義務を皆で守っています。また、農作業に関する農耕儀礼や日常生活に欠かせない多くの神様に感謝する祭事も欠かせない活動になります。本事業を通じて設置した4台の“水車”にも感謝の祭事は欠かせません。



写真-2：水車への祭りの様子



写真-3：世界遺産登録を記したシンボリックな石碑

4. 現地での活動を通じて

水車で起こした電気は、棚田を行き来する農道を照らす街灯に利用されます。今後、水車・街灯の維持・運営管理はスバックが主体となり行っていく必要があります。このため、残り少ない事業期間の中で、スバックのメンバーによる運営組織体系の構築や操作・メンテナンス方法を支援する活動を行っています。

本事業では、資材運搬から水路改築、水車据付等、スバックメンバーが直接、携わって設置しましたが、このスバックのチーム力が、世界遺産登録に繋がる美しい棚田を守ってきているのだと感じます。



写真-4：メンテナンス方法を学ぶ様子

5. おわりに

バリ島を訪れてスバックの方々と交流を深めることで、その地の歴史や文化を肌で感じる機会を得ました。

現地で宿泊した夕飯ときには、スバックのメンバーから自宅にお招きいただき、家庭料理やお酒を振舞っていただきました。お酒は椰子の実から作られる白濁した“ラウー”と呼ばれる自家製の地酒です。食事の後は、グラス一つでヤカン一杯に入ったラウーを皆で回し飲みしながら、楽しいひとときを過ごしたのも良い経験です。



写真-5：招待頂いたご自宅にて